

- ボランティア活動は、誰のためでもなく自分自身のためであり、障がいのある方から多くのことを教えられ学ぶことが多くあった。人として共に生き、生かされていく為には福祉活動は大事であるとの意見があった。
- 地域福祉の推進は、地域との協働で行っていくことが望ましいが、自分たちの生活で手一杯であり、料金を支払ってでもお世話になった方がよいとの意見があった。
- 地域福祉活動計画を作成するにあたって一番多かった要望は、「実際に活用できる計画」や「実現可能な計画」を求めるとの意見があった。
- 地域で一人にならないように月1回開かれているふれあい・いきいきサロンは、顔見知りになる心強さ、回を重ねるごとに笑顔で挨拶したり、欠席者を心配したりと支え合うことで心の通い合いもでき、必要であるとの意見が多かった。

(※ アンケートの自由記述欄の意見を取りまとめて列記しています。)

7 地域福祉活動会議実施結果の概要

(1) 地域福祉活動会議の経緯

地区社協を中心とした地域福祉活動会議の開催及び参加者数については、以下のとおりです。

開催日	地区社協	会場	参加者数
6月4日	秋月地区社会福祉協議会	秋月公民館	20人(男性 13、女性 7)
6月5日	上秋月地区社会福祉協議会	上秋月公民館	13人(男性 12、女性 1)
6月6日	安川地区社会福祉協議会	安川公民館	16人(男性 12、女性 4)
6月17日	立石地区社会福祉協議会	立石公民館	19人(男性 12、女性 7)
6月25日	甘木地区社会福祉協議会	甘木公民館	50人(男性 27、女性 23)
7月10日	福田地区社会福祉協議会	福田公民館	25人(男性 17、女性 8)
7月16日	馬田地区社会福祉協議会	馬田公民館	20人(男性 17、女性 3)
7月17日	金川地区社会福祉協議会	金川公民館	21人(男性 18、女性 3)
7月23日	蜷城地区社会福祉協議会	蜷城公民館	18人(男性 12、女性 6)
7月25日	朝倉地区社会福祉協議会	朝倉老人福祉センター	18人(男性 8、女性 10)
7月28日	高木地区社会福祉協議会	高木公民館	21人(男性 17、女性 4)
7月30日	杷木地区社会福祉協議会	杷木老人福祉センター	37人(男性 19、女性 18)
7月31日	三奈木地区社会福祉協議会	三奈木公民館	26人(男性 13、女性 13)
10月27日	美奈宜の杜社会福祉協議会	美奈宜の杜コミュニティセンター	18人(男性 7、女性 11)
11月17日	杷木地区社会福祉協議会	杷木老人福祉センター	25人(男性 12、女性 13)
		参加者数	347人(男性216、女性131)

(2) 地区別協議結果の一覧

[上秋月地区]

1. 子ども、子育てについて

- 地区で子どもが少なくなっている。

2. 高齢者について

- ほのぼの配食を年10回、会食会を年1回実施している。
 - ・対象者は、70歳以上の一人暮らし、75歳以上の二人暮らし、90歳以上の方。
 - ・ボランティアグループ(十石会)が、食材の準備から調理までを行っている。
- 交通が不便である。福祉バスはあるが、利用していない。民間タクシーを利用している人が多い
- 医者にかかる場合は、往診してもらっている。
- ふれあい・いきいきサロンは、3か所自治公民館で行っている。

3. 障がいのある人について

- 地域で障がいのある人が把握できていない。
- 障がい者総会の出席者は、4名から5名で役員のみである。

[秋月地区]

1. 子ども、子育てについて

- 少子化の影響で、保育所の統合はどうなるのかが分らない。
- 児童の登下校時に声かけ運動を民生委員・児童委員で実施している。
- ファミリーサポートの制度を市が導入を検討してほしい。

2. 高齢者について

- ほのぼの配食を年5回、おやつ配達を年1回実施している。
 - ・対象者は、70歳以上の一人暮らしや二人暮らしの方。
 - ・愛のネットワーク委員会を設置し、委員が弁当をつくり、民生委員とともに安否確認を兼ねて配達をしている。
 - ・愛のネットワーク委員会は、年1回一人暮らしの高齢者と野外交流会を実施している。
- ふれあい・いきいきサロン(お茶のみ会)は、8区中6区で実施している。
- 別に地区公民館が地区全体を対象とした、ふれあい・いきいきサロン(お茶のみ会)を実施している。
- 寿会(老人クラブ)は、自分たちで見守り活動を行っている。
- 買い物などは、隣近所の方が車に同乗させて連れて行っているが、交通事故が発生した場合の対応が難しい。

3. 障がいのある人について

- 地域で障がいのある人が、把握できていない。
- 身体障害者福祉協会への加入を呼びかけても、加入しない方が多い。
- 障がいのある人は、ゴミを収集場所まで持って行けない。

[安川地区]

1. 子ども、子育てについて

- 子育て支援として、出産の祝い金を3年間及び小学校入学時に祝い金を贈っている。

2. 高齢者について

- ほのぼの配食を年8回実施している。
 - ・以前は、会食会を行っていたが、現在は行っていない(交通の問題)。
 - ・配食ボランティア会員は、現在60名から70名程度いるが、一般より募集している。
 - ・配達は、民生委員が安否確認を兼ねて行っている。
- よその地区は福祉巡回バスがあるが、交通手段として乗合タクシーの検討が必要では。
- ふれあい・いきいきサロンは、2か所自治公民館で行っている。

3. 障がいのある人について

- 地域で障がいのある人が把握できていない。

[甘木地区]

1. 子ども、子育てについて

- この頃の子どもは・・・というが、その子どもたちを育てたのは、今の大人である。
- 大人たちが積極的に、今の子どもたちの育て方に対して知恵を出す必要がある。
- 毎月1回市役所の近くであいさつ運動をしているが、返事が返ってこない。

2. 高齢者について

- ほのぼの配食を年7回実施している。1回につき245食。
 - ・以前は、会食会を行っていたが、参加者が少なくなったため現在は行っていない。
 - ・配食ボランティア(コスモス会)会員は約50名。
 - ・対象者は、77歳以上の一人暮らし、もしくは二人暮らしの方。
 - ・配達は、各地区のボランティアが安否確認を兼ねて行っている。
- 小地区の自治公民館で、年に2~3回会食会やおやつ会を民生委員が中心となって年13回実施している。
- 一人暮らしの高齢者が増加してきた。甘木町で孤独死があつて数日後に発見されたことがあつた。

- 高齢者の一人暮らしや二人暮らしに関して、一方的に弱者と見ているが元気な方が多いので、高齢者の方が役に立っていると感じる場所を提供することも大事では。
- ふれあい・いきいきサロンは、5か所自治公民館などで行っている。

3. 障がいのある人について

- 地域で障がいのある人がどこに誰がいるのかわからない。実態把握ができない。
- 近所の方に障がいを持っている方がいるが、どう対応していいのかわからない。

[馬田地区]

1. 子ども、子育てについて

- 「ちびっこ来夢」を開設、地区公民館で月2回子どもと過ごし子育て上の悩みを受ける。
- 民生委員・児童委員が学童保育に月1回当番で2人ずつ見守りに行っている。

2. 高齢者について

- ほのぼの配食を年4回、おやつ配達を年1回実施している。
 - ・ボランティアグループ「馬田福祉ボランティアほのぼの会」が弁当を調理している。
 - ・食材については、当番制としているので代表者の方が買い物に行かれる。献立は、季節に応じたものになっている。
 - ・ボランティアは、一般公募の会員が50名、その他役職が18名。
 - ・男性も女性と同様に弁当詰めをしている。配達は、会員が行っている。
 - ・対象者は、70歳以上の一人暮らし。毎回120食程度。
 - ・配達の際は、安否確認を兼ねて、「元気ですか」と一声かけながら配っている。
- ほのぼの会で、ミニサロンを年4回はしようと決めている。配食だけだと引きこもりがちの方は出てこないで、民生委員などが呼んで自治公民館で会食する。食材を持ち寄り、つくっている。対象者は、70歳以上の高齢者で閉じこもりがちの一人暮らしの方。足の悪い方は、会員の皆さんが協力して送迎している。
- 愛のネットワーク活動は、高齢者の一人暮らし・二人暮らし、子どもを主体とした見守り・安否確認を民生委員・児童委員を中心に取り組んでいる。また、他の地区内はどういう取り組みをしているかお互いに問題点を出して検討している。
- 安心ネットワーク活動は、児童の登下校の安全確保やあいさつ運動に取り組んでいる。
- 福祉委員は各地区の隣組長にお願いし、市報などを配布するときに安否確認をしている。また、民生委員を助けるために、アンテナとなって活動している。
- 一人暮らしの多い地区は、交通手段がなく日常の買い物に困っている。
- ふれあい・いきいきサロンは、14か所自治公民館で行っている。

3. 障がいのある人について

- 地域に住んでいる障がい者の方の把握は、プライバシーの問題もあり難しい。

[立石地区]

1. 子ども、子育てについて

- 子育てをどうしていいのかわからない方が多くなっている。新しいアパートがたくさんできて小さい子どもをたくさん見かけるようになった。
- 子どもたちが、自転車で走りまわったりする遊び場がほとんどない。

2. 高齢者について

- ほのぼの配食を年8回実施している。1回あたりの配食数 約140食。
 - ・ひまわり会(ボランティア)会員は、28名。
 - ・対象者は、70歳以上の一人暮らし及び75歳以上の高齢者。
 - ・民生委員が必要数を確認、ひまわり会が調理し、配達は福祉委員が安否確認を兼ねて行っている。ひまわり会の会員が福祉委員と一緒に回って話をしている。
- 福祉委員制度を設置して2年目であり、ほのぼの弁当の配食が中心となっている。
- 向こう三軒両隣運動 ボランティア約80名(交通指導員含む)。通学時の交通指導およびあいさつ運動を約20名近くの方が毎日続けられ、子どもたちは安心して通学している。
- 人口増加が著しい地区であるため、千鶴会(老人クラブ)に、半数以上の高齢者が加入していない。
- ふれあい・いきいきサロンは、3か所自治公民館で行っている。

[福田地区]

1. 子ども、子育てについて

- 毎月2回民生委員・児童委員で、子どもと同じ目線であいさつ運動をしている。
- 毎月1回、通学路のなかで十字路など危険と思われる場所で、各団体の長と交通指導員・地区公民館・民生委員・児童委員が2人から3人程度であいさつ運動と交通指導を行っている。
- 小学校の花壇を使って、小学校が企画するいきいき交流会で児童と高齢者がボランティア(民生委員・児童委員)の協力を得て、野菜づくりを行っている。
- 少子化や子育ての支援に関して、いきいきサロン開催日に子どもを預けるような取り組みができないか。

2. 高齢者について

- ほのぼの配食を年5回実施している。
 - ・以前は、会食会を行っていたが、参加者が減少したため、現在は行っていない。
 - ・配食ボランティア(野の花会)会員は40名で調理を担当し、配達ボランティア(民生委員)が担当している。
 - ・対象者は、70歳以上の一人暮らし、もしくは70歳以上で一人が75歳以上の二人暮らし及び三人暮らしの方。

- ・安否確認を兼ねて、利用者との連絡は民生委員が行っている。
- お茶のみ会は、年10回程度行っている。70歳以上の方を主体に、30名程度の参加があるが、最近は少なくなっている。お茶のみ会を地区単位で検討したい。
- 福祉委員は20名。区会長が推薦して、地区社協会長が委嘱する。活動内容は、月に2から3回高齢者宅を訪問し安否確認を行い、訪問記録を作成し民生委員に提供している。
- 福祉連絡委員(隣組長が兼務)は、近所の問題などに対応。市報配布の際に安否確認をしている。
- 一人暮らしや二人暮らしの車での移動については、身近に親族などがいるので特に大きな問題はない。困ったときに民生委員に声かけしてもらおうように伝えている。
- ふれあい・いきいきサロンは、2か所自治公民館で行っている。

3. 障がいのある人について

- 民生委員と障がい者の方との交流会をしようと検討したが、把握できていなかった。地域に住んである障がい者の方の把握が難しい。

[蜷 城 地 区]

1. 子ども、子育てについて

- エンゼルキッズは、小学生に会員制で「福祉と環境」をテーマに、年間計画を立て募集をしている。車いす体験学習や千歳弁当の手伝いを年に1回、キンビール工場、サンポート見学、飯盒炊飯などを行う。
- 地区の安全安心を目標に活動しているボランティアグループを中心に、子どもの登下校時にパトロールしている。グループ会員も設立時から年々増加して充実した活動が行われている。
- 「ひよこ学級」を月2回地区公民館で開催し、保育所に入る前の親子を対象としている。参加者は多い時で12組～13組。蜷城地区以外の方も多く参加される。

2. 高齢者について

- ほのぼの配食を年21回、おやつ配達を年2回実施している。
 - ・ボランティア(千歳会)は、約23人で2班あり、調理及び配達は、千歳会が中心に行っている。また配達時に利用者の安否確認をしている。
- 毎月第2・第4木曜日の月2回、お茶のみ会を地区公民館で実施している。多い時で30名程度参加がある。ボランティアは、12人程度。利用される方が去年ごろから増えてきた。地区公民館まで来れない人は、送迎をしている。
- 助っ人マンについては、送迎中の事故に関する対応が必要である。無償ボランティアとして行っているが、現在は事務費として200円頂いている。ボランティア会員は、民生委員が中心となっている。依頼件数は、そう多くない。利用者の方は、事前に登録制度で地区公民館を窓口としている。
- 民生委員・老人クラブ・地区社協とそれぞれ一人暮らし老人の安否確認を行っている。

3. 障がいのある人について

- 災害時における連絡網の整備や、行政をはじめ関係機関との連携が必要では。

[金川地区]

1. 子ども、子育てについて

- 就学前の子どもを持つ親子を対象として、「きらきら学級」を開催している。地区公民館の事業として取り組んでいるので、市内に住んでいる人が対象となる。会員が25名から26名程度である。
- 金川地区には、学童保育はない。元気な高齢者が子どもを見守るなどファミリーサポートセンター制度の導入の検討が必要では。
- 子どもを守る会は、小学校とタイアップしてステッカーを作製し、安全確保のために車に貼り巡回している。毎月2回交通安全パトロールを行っている。

2. 高齢者について

- ほのぼの配食を年5回、会食会を年1回実施している。
 - ・対象者は、70歳以上の一人暮らしや二人暮らしの方。毎回120食程度。
 - ・ボランティア(こがね会)は、約40名。配達は、安否確認を兼ねて6地区に分けて民生委員・区会長・こがね会で行っている。
- お楽しみ会を年4回、地区公民館で実施している。毎回40名から60名程度の参加があり、血圧測定や健康体操などイベントを取り入れて実施している。

3. 障がいのある人について

- 身体障害者福祉協会に入会するように勧めているが、なかなか入らない状況である。

[三奈木地区]

1. 子ども、子育てについて

- 児童・生徒については、主任児童委員を中心に学校と連携を取りながら行っている。
- 子どもたちは、行事になかなか参加しないので大人が積極的に関わっていかないといけない。小学校1年生を対象に、さつまいも植えや収穫、3年生を対象に水泳教室を開催している。また地区公民館で、囲碁・大正琴・読み聞かせのクラブを行っている。
- 民生委員・児童委員が、あいさつ運動に立つなど地区全体で子どもの見守り活動を行っている。

2. 高齢者について

- ほのぼの配食を年10回実施している。うぐいす弁当は、1回につき60食前後で、対象者は70歳以上の一人暮らしや75歳以上の二人暮らしの方(自分で炊事ができる方は断られる)。
 - ・地域の方から野菜などの提供があり、地域でとれたものを食材として使用している。

- 7月・8月は、衛生面で弁当は中止している。7月にお土産・お菓子をつくっていつもゆっくり話せない高齢者宅を訪問し、心の交流を図っている。
- 男性のボランティアがすすんで配達をしている。女性のボランティアは配達についていて、安否確認をしている。
- 男性のボランティアは12名。女性のボランティアは、2班に分けている。地域の方の野菜などの差し入れがあり地域のものを使用している。ボランティアしている方が生きがいを感じていることが大きい。
- 8月は、ボランティアの先進地の視察を行い、健康づくりなど研修に取り組んでいる。
- ほのぼの会食会を年2回行っている。対象者は、うぐいす弁当と同じ。園児から中学生までの子どもたちも参加し、小さい時から福祉に関わっている。
- 老人クラブは、一人暮らし高齢者が65人、二人暮らし高齢者が53組いるが、必要な方については、「声かけ」や「技術支援」、「生活支援」を月5回以上実施してチェックしている。
- 愛のネットワークは、声かけ運動や見回り運動を福祉委員が行っている。福祉委員は、区会長や隣組長にお願いしている。他に「防火クラブ」では、ガス台の確認や電球の交換をしている。「あじさい会(地域の女性の会)」が、年1回から2回高齢者宅を訪問している。
- 福祉委員は、高齢者宅に月2回市報をもって訪問し安否確認を行っている。

3. 障がいのある人について

- 障がい者が高齢化し、身体障害者福祉協会の会員が減少している。声をかけても会に参加しない方が多い。誰が障がい者の方かわからない。

[高木地区]

1. 子ども、子育てについて

- 子どもが少なく、地域で出会う機会がなかなかない。少子化率2.6%である。

2. 高齢者について

- 高齢化率が市内で一番高い地区であるが、地域の日常生活のなかで声かけがおこなわれており、特に大きな問題はない。
- ほのぼの配食は、年3回実施している。利用者は123名。民生委員が安否確認を兼ねて配達している。
- 高齢者のお茶のみ会は、介護事業所の指導により月1回開催している。会場は地区公民館などで、参加者は1回につき10名程度である。
- 買い物は、定期バスを利用している。業者が週に2回から3回、場所と時間をきめて鮮魚や果物や生活雑貨をもって販売に来ている。

3. 障がいのある人について

- 障害者手帳を所持している方でも、一見障がいがない方のようにしっかりと仕事をしている方がいる。

- 身体障害者福祉協会が、黒川地区にはあるが佐田地区にはない。高木地区として、黒川と佐田と一緒にやっていくことが必要ではないか。手助けしようとしても、障がい者の方がどこにいるかわからない。プライバシーの問題があり、立ち入ることが難しい。
- 高齢者のなかには、連絡しようにも電話や玄関のベルが聞こえなくて訪問がなかなか難しい。

[美奈宜の杜地区]

1. 高齢者について

- ふれあい・いきいきサロンは、月1回開催している。利用者やボランティアの皆さんの意見を聴き、いろんな行事を取り組んでいる。男性3名、女性8名、ボランティア4名の計15名。高齢化率の割に、対象者が少ないのは比較的元気な方が多いため。
- 美奈宜の杜の活動は、小地域単位ではなく、まとめてさまざまな活動を実施している。
- 高齢化に伴う福祉について、どう取り組みをしていいかということになり、メンバー6名で福祉ネットワークをどう作るかということで、検討会が発足した。
- 新興住宅地である美奈宜の杜は、開発が終わると開発事業者は引き上げるのが一般的であった。しかし、住民と一緒に地域活動をやっていくことになったが、自分たちのことは、自分たちで守っていかなければならないという認識がだんだん出てきた。
- 区会と開発事業者の2本柱があり、毎月定例会を開催している。この2つの関係が良ければ地区もうまく回っていく。しかし、現在は隣組制度がなく3つのブロックに分け、それぞれに世話人を置こうという話が出ており、まちの形が少しずつ出来あがってきている。
- 地域のボランティア活動をしようということで、お助け隊が発足した。10項目ほど内容を決めて活動している。これから本格的に開始する予定。材料費のみの実費負担である。
- 食の問題については、地区業者による弁当の宅配システムを利用している。また、食材については、配達を行っている市内業者の宅配システムを利用している。
- 買い物支援システムについては、近くの介護施設の協力を得て毎月10人乗りバスを運行している。
- 医療関係については、市内の病院が週2回診療所を開所し、歯科についても週4回歯科医院を開所している。
- 見守り活動としては、各家庭に緊急時の連絡が街内の警備待機室に行くように機械が設置されている。また、ペンダントも各家庭に1つ配られている。見守りが必要な方への住民相互協力での取り組み体制は、確立されていない。
- 毎週1回朝市(ぬくもり畑)が開かれ、野菜・果物・干もの・花の苗などが販売されている。